

令和5年度練馬区立光が丘第八小学校 学校評価報告書

令和6年3月4日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 世古 徳浩

1 自己評価結果

(1) 概要

教職員による自己評価は、10月に実施案を検討し、次年度の教育課程編成を含め、12月下旬までに行った。その間、12月上旬に児童・保護者・地域へのアンケートを実施した。ここでは、はじめに両アンケートの結果を示し、そこから教職員による評価をまとめ、成果と課題及び改善策を述べる。

① 成果と課題

<保護者へのアンケート>

(肯定的評価の割合 %)

No	質 問 内 容	一昨年	昨年	本年
1	教育方針や学校の雰囲気にも共感できる	84	84	90
2	自分の家の子供は学校に行くのが楽しいと言っている	85	84	91
3	学校は、子供の学力や頑張りを適切・公平に評価している	87	78	84
4	自分の家の子供は、授業の内容を理解している	85	81	81
5	授業が分かりやすい授業になるように工夫している	87	74	76
6	宿題はちょうどよい分量が出ている	77	71	72
7	先生は自分の子供を理解し、適切に指導をしてくれている	82	76	84
8	縦割り班活動や通常の学級と特別支援学級との交流などを通して子供同士の人間関係を深め、思いやりの心を育てている	70	69	79
9	学校行事が学校生活の充実や心身の成長にとって有意義である	95	94	94
10	学校はいじめや暴力を見逃すことなく、適切に指導している	64	56	56
11	光八小の子供たちは家族や近所の人にきちんと挨拶ができている	50	54	61
12	光八小は掃除や整備が行き届いていてきれいである	87	91	93
13	学校公開、保護者会、学校便り、学年・学級便りなどを通して、学校のことや子供たちの様子を分かりやすく伝えている	82	83	95
14	避難訓練や安全指導や保護者への情報提供等、安全対策をしっかりと行っている。	81	78	91

<児童へのアンケート>

(肯定的評価の割合 %)

No	質 問 内 容	一昨年	昨年	今年
1	毎日学校に行くのが楽しい	81	84	81
2	休み時間や放課後に一緒に遊べる友達がいる	91	89	89
3	いじめられたり仲間はずれになったりしていない	87	80	88
4	授業で勉強していることがよく分かる	90	89	88
5	授業中に先生や友だちの話をよく聞いている	89	91	92
6	遠足や体育発表会などの学校行事は楽しい	85	85	89
7	天気がいい時は、休み時間に元気に外で遊んでいる	78	84	81
8	困った時には、先生・家の人・友達に相談している	75	76	79
9	学校で自分からすすんで元気にあいさつできる	80	79	83
10	家では、毎日勉強したり本を読んだりしている	74	78	74
11	家では、家族にきちんと挨拶している	83	79	89
12	家では早寝早起きをして、規則正しい生活をしている	71	74	73
13	毎日朝ご飯を食べて登校する	96	93	95

上記の表は、保護者・児童へのアンケートの結果を、一昨年度、昨年度の数値も含めて表に整理したものである。自己評価を実施するにあたり、このアンケートを主な資料として活用した。主な成果と課題は次の通りである。

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことに伴い、学校行事について従来の内容や方法を再検討して実施し、それぞれのねらいを達成することができた。その結果、昨年よりも高い評価を得ている。「学校の教育方針」「学校の雰囲気」「学校の楽しさ」「頑張りを適切・公平に評価」「子供たちの様子を分かりやすく伝える」といった点において、良好な評価を得ており、いずれも昨年度より6～10ポイント高い評価を得ている。校長の学校経営方針に基づき、全教職員が「チーム光八」として一丸となり、組織的に協働して、学校全体で共通理解に基づく統一した教育活動を丁寧に積み重ねてきた結果であると考えられる。また、通常の学級と特別支援学級との交流や縦割り班活動などの交流活動も計画的に取り入れていることについての評価も得られた。

一方、「いじめや暴力を見逃さない」の数値は例年、低い数値となっている。児童の様子について心配なことや保護者からの訴えに対して迅速に対応し、教職員が情報共有し、組織的な対応を継続して行っている。また、深刻ないじめについて今年度も発生していない。今後も一層、教職員間で情報共有し、共通理解の下、共通実践を行い、学校でのいじめ防止の取組を推進していく。

挨拶については、挨拶の定着を繰り返し指導しているが、改善までには至っていないが、着実に成果は出ている。「家族や近所の人たちにきちんと挨拶ができている」について保護者評価も昨年度よりも7ポイント上昇している。学校での継続的な指導とともに、家庭での協力を求め、学校以外の場でもより気持ちのよい挨拶の定着を図っていく。

「授業の内容を理解している」の設問は肯定的評価が8割の肯定的評価を得ている。今年度は教育課題研究指定校として実践を積み重ねてきた。研究を通して、全教員の大半がタブレット端末やICT機器を使いこなし、効果的に活用した授業を行うことができるようになった。児童の学習をより深めるためにICTを活用した授業を計画したり、児童に委ねる主体的な学習など新しい学習の流れを積極的に取り入れたりした。全教員が工夫して指導に取り組んできたことが評価につながっていると考える。今後も引き続き授業改善に取り組み、学力向上に取り組んでいく。

② 改善策

ポストコロナを踏まえ、行事等も含めた新たな教育活動の在り方を探り、具体的な働き方改革の方策を取り入れながら、教育活動の充実を図っていく。

配慮を要する児童の大変多い本校の実態を踏まえた個別の支援については、今年度、異動により教職員の配置が変わったことから校内体制がさらに充実し、対応力が強化された。来年度も引き続き、全教職員で情報共有の上、児童の困り感に早期に対応できるように共通理解・共通実践をしていく。また、スクールソーシャルワーカーなどの外部機関・外部人材の機能も引き続き積極的に活用し、個に応じた支援がさらに充実するよう、迅速に柔軟な対応を心掛ける。

また、その他、どの教育課題についても、組織的に解決していくことが必要である。そのためにも教職員の指導力向上を図り、教職員の共通理解の下、共通実践し、様々な課題の改善に向け、以下の自己評価結果を踏まえた次年度の改善策を更に推進していく。

(2) 根拠となる資料（教職員による自己評価）

領域	方 策	評 価 項 目	評価結果	自己評価結果を踏まえた考察及び次年度の改善策
人権教育・道徳教育の推進	思いやりのある温かい心の育成 受容的、共感的、肯定的なコミュニケーションを図る	①全員が安心して発言できる学級の雰囲気 を醸成している	B	①：「光八小版基本的指導過程」に基づき、学級経営の充実を図った。 ②：引き続き計画的な縦割り班活動と個の実態を踏まえた共同学習を実施する。 ③：本校の児童の実態から、生活指導上の指導事項は多い。計画的に指導していく。 ④⑤：常に情報共有・共通実践を心掛けた。教員により、指導力・対応力に差がある。学習規律、生活規律については全学級、全教員が意識して共通理解し、引き続き全教員が統一した指導の徹底を図る。
	縦割り班活動、運動各種目の参加等、特別支援学級と通常学級との交流及び共同学習	②特別支援学級と通常学級との交流及び共同学習により、お互いの個性を尊重する教育を実践している	A	
	礼儀や規範意識の確立	③毎月「あいさつ」に重点を置いて、生活規律（3つの「あ」）の定着を図っている	B	
	子供たちとの信頼関係を軸とした納得感のある学習規律の構築	④子供たちとの信頼関係を軸とした納得感のある学習規律を構築している	B	
	生活指導夕会をいじめ問題対策委員会としても位置付け、積極的な情報交換、共通理解を図る。	⑤生活指導夕会による積極的な情報交換、共通理解を図っている	A	
学習指導の充実	朝のモジュールの時間を活用し、基礎的・基本的な学力の定着	⑥短時間の繰り返し学習による漢字や音読の成果を検証し、基礎的・基本的な学力の定着を図っている	A	⑥：100マス作文の指導が2年目に入った。少しずつではあるが、児童の書く力が伸びてきた。次年度も継続させ、実態に応じた基礎学力の充実を図る。 ⑦：タブレット端末等を活用し、工夫して主体的・対話的で深い学びの
	・「自分の考え→交流→振り返り」の授業展開の継続 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した学習形態を工夫した授	⑦「自分の考え→交流→振り返り」の授業展開を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っている	B B	

	業展開の実践			実現を目指した。
特別活動、異学年交流の充実	心がつながり合った自主・自立した子供集団の育成	⑧学級活動、委員会、クラブ活動を通して、子供の自主性を育てる教育実践を創造している	B	⑧⑨：活動内容等を工夫して実施できた。次年度は今年度の反省も生かし、さらに教育効果が高まるような計画を立てていく。
	高学年をリーダーとした実践の活性化	⑨光っ子活動を通して、高学年をリーダーとした実践の活性化を図っている	B	
教職員の資質向上	授業力向上を図るOJTチームでの相互による授業観察の計画的な実施と報告	⑩OJTチームでの相互による授業観察の計画的な実施と報告を行っている	B	⑩：次年度は、年度当初にOJT計画を立て、定期的実施する。年間計画、月行事にOJTを位置付ける。 ⑪：サービス事故を起こすことなく、適正にサービスが遵守されていた。出退勤システムによるサービス管理については引き続き適時の処理によりエラーがないように教職員への指導を続ける。
	当たり前のことを当たり前に行えるサービス規律の徹底	⑪出退勤システムによる出張や休暇申請、週案の事前提出など、サービス規律を徹底している	B	
その他の項目	体力向上、健康の保持増進を図る取組 校庭遊びの励行と行事に向けた取組の充実	⑫校庭遊びの励行と持久走や縄跳びなどに向けた取組の充実を図っている	A	⑫：体育的活動や外遊びの充実について工夫して実施した。次年度も体力向上と運動量の増加を目指した計画を立て、実践していく。

2 学校関係者評価

(1) 総括

①成果

- ・新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことに伴い、これまでの教育活動を再考し、工夫して教育活動に取り組んでいることが評価されている。
- ・「学校の教育方針や雰囲気」「学校の楽しさ」「頑張りを適切・公平に評価」などの項目について昨年度よりも高評価になっていることから、本校の教育活動について保護者からの理解が深まった。
- ・「学校はいじめや暴力を見逃すことなく、適切に指導している」という項目が昨年度と同様低評価になっている。しかし、児童や保護者からのいじめの訴え、生活指導上の課題などの訴えがあったときには、全教職員が即時対応することを心がけ、管理職、担当に報告・連絡・相談・記録し、共通理解の下、共通実践して対応する取組を継続して行っている。
- ・コロナ渦以前の行事が復活し、児童は楽しみながら生き生きと学校生活を過ごしている。

②課題

- ・児童の挨拶は例年の課題であるが、年々、改善傾向が見られる。挨拶については学校経営方針の1つでもあり、引き続き保護者会や学校便り等の場を活用して保護者へ啓発し、保護者と協力して改善に取り組んでいく必要がある。
- ・今年度も深刻ないじめは発生しておらず、保護者・児童からの訴えがあった場合にも即時対応を心掛けてきた。学校の取組について理解できていない保護者も見られるため、学校の取組を保護者に周知し、保護者の安心感につなげていく。
- ・特別支援学級と通常の学級との交流は本校の特色である。児童の実態を踏まえながら、取組内容を工夫して計画的に交流活動に取り組んでいく。

③改善策

- ・基本的な生活指導事項とともに、挨拶について年間を通じて指導し、言葉遣いについても繰り返し指導していく。
- ・更なる授業力向上を目指して、今年度の研究発表の成果を生かして計画的にO J Tを実施し、日常的に互いに高め合う教員の雰囲気醸成していく。

(2) 根拠となる資料

領域	評価項目	学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた次年度の改善策
		自己評価結果に対する意見	次年度の改善策に対する意見	
人権教育・道徳教育の推進	①全員が安心して発言できる学級の雰囲気を醸成している	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をよくするようになっている。 ・子供の自主性が気になる。 ・登校時や下校時、家の前で会うと挨拶をしれくれる子が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規則を守ることは重要だが、なぜその規則が必要なのか一歩踏み込んで考え、行動することで今後の足掛かりとしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については次年度も引き続き指導を続ける。生活指導上の課題を全教員で共通理解し、月目標、週目標により、計画的に指導し、生活指導の充実を図る。また、規則を守ることの意味を自ら考えさせる指導について取り組む。 ・通常の学級と特別支援学級との交流の機会を引き続き設定する。
	②特別支援学級と通常学級との交流及び共同学習により、お互いの個性を尊重する教育を実践している			
	③毎月「あいさつ」に重点を置いて、生活規律（3つの「あ」）の定着を図っている			
	④子供たちとの信頼関係を軸とした納得感のある学習規律を構築している			
	⑤生活指導夕会による積極的な情報交換、共通理解を図っている			
学習指導の充実	⑥短時間の繰り返し学習による漢字や音読の成果を検証し、基礎的・基本的な学力の定着を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会では児童がしっかりと授業を受けていた。教師と子供たちの間がいい関係にある。 ・教師が一体となって指導にあたっていることがよく分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もタブレット端末などのICT機器の有効活用をぜひ図った学習指導を展開してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課題研究校としての成果を生かし、効果的な算数科の学習指導の工夫を続けるとともに、更なるタブレット端末の有効活用を図り、授業改善を図っていく。
	⑦「自分の考え→交流→振り返り」の授業展開を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っている			

特別活動、異学年交流の充実	⑧学級活動、委員会、クラブ活動を通して、子供の自主性を育てる教育実践を想像している	・体育発表会では日頃の成果を十二分に発揮していた。応援団も復活し、声を出す機会は貴重であった。	・先生方の苦勞も多いと思うが、今後も交流活動を計画して行ってほしい。	・引き続き実施形態を工夫して児童が達成感を味わえるような取組を計画し、リーダーを育成していく。
	⑨光っ子活動を通して、高学年をリーダーとした実践の活性化を図っている。			
教職員の資質向上	⑩O J Tチームでの相互による授業観察の計画的な実施と報告を行っている			・管理職の指導、計画的なO J T、研究会への参加、校内研究等を通して引き続き授業力の向上を図っていく。
	⑪出退勤・出張・休暇等の申請、週案の事前提出など、服務規律を徹底している			
その他の項目	⑫校庭遊びの励行と持久走や縄跳びなどに向けた取組の充実を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、P T A、学校応援団、ひろば、児童館、青少年委員、外部開放団体などが一体となって八小まつりを実現できた。 ・体育発表会、持久走大会など熱心な指導で子供たちもそれに応えていた。 ・持久走大会は子供たちの体力作りの一助となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席連絡等 Google フォーム、sigfy の活用によりかなり楽になった。引き続き、脱手書き、メール配信等にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も校庭での朝遊びを行った。計画的に体育的活動や遊びの時間を取り入れ、体力向上の取組を充実させる。 ・学校、P T A等と引き続き情報共有をしながら、子供たちの育成を図る。

3 評価結果の公表等

12月に実施した児童・保護者・地域アンケートは、教員による自己評価の資料として活用し、まとめた。学校評価結果については、3月上旬に学校便りで配布し、ホームページでも公表する。

4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

今年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類になり、教育活動の様々な制限がなくなり、新たな教育活動を展開することができるようになった。2年間に渡り、区教育課題研究指定校としての実践に取り組んできた。校内研究を通してタブレット端末を有効活用し、工夫しながら学習指導を行うことができた。全教員のICT活用能力が高まったことは大きな成果であり、今後も有効に活用を図った学習指導を行いたい。

また、授業観察や面接を通して、具体的な指導・助言を行うことで授業力の向上を図りたい。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が図られているか、全員が安心して発言できる雰囲気が醸成されているかといった点など指導するポイントを明確に絞り全教員の更なる授業力の向上を図る。

学校評議員からは、本校の教育活動や今年度の改革等について概ね高い評価をいただいている。今後も学校の組織力や教員の指導力を高め、より多くの具体的な成果を上げられるよう、全教職員で「チーム光八」として組織的に対応し、教育活動を行っていく。